

建築・基盤整備（市街地再開発事業）

◆導入施設

- ・多様な住戸バリエーション
【高齢者】サービス付き高齢者向け住宅
【若者】シェアハウス
【外国人】サービスアパートメント
- ・暮らしを支える施設
商業施設、クリニックモール、保育所 など

◆基盤整備

道路、盛土、ライフライン
(水道、下水道、水素パイプラインなど)

◆スケジュール

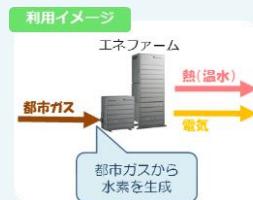
平成28年4月	事業に着手（基盤整備～）	平成31年12月(目途)	大会時使用部分の整備完了
5月	特定建築者の公募	平成32年7月～	東京2020大会
7月	特定建築者の選定		大会後改修工事
平成29年1月	建築工事に着手	平成36年度	事業完了

◆建物配置

建物形状を変更し、隣棟間隔を確保
【住宅戸数】約5650戸（分譲・賃貸）
【階数】板状棟 14～18階、高層棟 50階

◆水素の利活用

分譲棟各住戸に家庭用燃料電池
(エネファーム)
※設置は大会終了後を予定



東京2020大会後の選手村（イメージ）



交通

- ・マルチモビリティステーションを整備
BRTの発着ターミナル、カーシェア・シェアサイクルの共通ポート
- ・船着場を併設

エネルギー

◆水素供給事業

- ・水素ステーションを整備し、BRTやFCVなどの燃料電池車へ水素供給
- ・次世代型燃料電池※を商業棟、住宅共用部に設置
パイプラインにより水素を供給し、発電
(※供給される水素を空気中の酸素と反応させ、発電するシステム)



◆エネルギー利用の効率化

- ・エネルギーマネジメントの導入
省エネ、効率的なエネルギーの使用を促進
- ・太陽光発電や蓄電池の設置等により電力自給率を高める
エネルギーの地産地消、災害時にも自立できるまちに



○事業化に向けた取組

◆エネルギー事業計画の策定（平成28年度）

【策定の目的】

- ・エネルギーに関する取組目標や事業内容の提示
- ・規制緩和や支援策に関する合意形成の促進

◆エネルギー事業者の募集（平成29年度）

- ・水素を含む多様なエネルギーの供給
- ・最先端技術の導入
- ・エネルギーマネジメントの実施